



岡山大学 脳神経外科 山岡陽子

## 私のキャリアパス

茨城で栗農家と開業歯科医の一人娘として生まれた私は、気づけば医師になるようにレールを敷かれ、中学生の頃から脳外科を志していました。高校卒業後に二浪して久留米大学を卒業し、初期研修終了後に岡山に嫁ぎました。医学部5年生の時にご縁があり、同じ久留米大学出身である岡山大学の杉生憲志先生と出会い、血管内治療の魅力を知りました。後期研修2年間は岡山市市民病院で手術や血管内治療など幅広く経験し、医師5年目で岡山大学病棟勤務となりましたが、転勤直後からつわりが酷く、ほとんど働くことができないまま第1子出産となり、苦い経験でした。子供が生後4ヶ月のときに復帰し、同期と一緒に大学院に入学し、夜間は大学院の授業に出席したり、日中は県外への外勤や大学でのカテーテル手伝いでフルタイム勤務をしておりました。学会発表や書籍出版等にも携わっていました。ただでさえ夜間授乳で眠れない日々でしたが、日中は患者さんの命が関わってくるので一瞬のミスも許されない過酷な日々でした。医師8年目で第2子を妊娠しましたが、出産1週間前まで勤務し、産後は第2子が生後6ヶ月のときに復帰し、徐々にフルタイムにしていたものの、長男が精神的に不安定になることが増えたため、時短勤務を選択し、現在は子供を優先とした生活をしております。岡山大学ではカリキュラム上、大学院経由してから脳外科専門医受験となるため、最低でも医師9年目以降の専門医取得となります。私はキャリアを遅らせる選択肢を取ったので現在医師10年目ではありますが、今後学位・専門医取得を目指し、日々奮闘しております。

## 今後の抱負、会員へのメッセージ

現在は家庭を優先して仕事をしてしておりますが、徐々に自身のキャリアも積んでいきたいと考えております。

血管内治療は日々進歩しており、新しいデバイスがどんどん出てきておりますので、キャリア中断を経験されるであろう先生方にとって、中断はいっそう不安になると思います。私自身、キャリア中断中に血栓回収デバイスの種類が豊富になった時期でもありました。産前と同様のペースで復帰することは困難でも、少しずつでも無理の少ない状況で働きつつ、学会参加で知識をアップデートしていけば、従事可能な分野であると思いますので、お互い頑張っていきましょう。